

源兵衛川から見たもの

三戸 陽子

「また来たいな。」

「また来ようね。」

久しぶりに訪れた三島の街を親子三人で歩き  
なばら交わされた言葉。夫も息子も、そして  
私も充実感と笑顔で溢れていた。

新型コロナウイルスの影響を発令された以  
た、緊急事態宣言が静岡県で解除された。三  
月より休校が続き、行動を規制された。小

学五年生の息子の気分転換にと、大好きな源  
兵衛川へ少しだけ行ってみることになった。  
もちろんマスク着用、密は避けろ。市外在住  
の私達だが、十二年前に三島市で結婚式を挙  
げ、以来、三島の街を度々訪れている。

この日も、商店街にまず着くと、変わらぬ  
明るく活気ある風景に心が弾んだ。私達は、  
予約していたお店のお弁当をテイクアウトし、  
早速源兵衛川へと向かった。川辺に降り立つ  
と、いつもの美しい景色に吸い込まれるよう

ない思ひがした。腰を下ろしお弁当を食べ始め  
 た時、息子が手を滑へらせ、お弁当の中味を  
 川の中に落としてしまった。息子はすぐにそ  
 の場で拾い集めたが、毒が流されてしまった。  
 あっという間に毒を消した毒を、息子は追お  
 うと必死だ。そんな日に毒が惜しかったのかと  
 思ひながら、私が息子をたしなめると、意外  
 な応えが返ってきた。  
 「ぼくのせいで川が汚れてしまうよ。  
 思わず私は自分を恥じた。と同時に息子の川

への思ひや自然を大切に作る気持ちに感ずし  
 た。美しい川だからこそ、汚れるほいりない  
 という思ひが自ずと生まれたのだろう。その  
 後、元気を取り戻した息子と共に川沿いを散  
 策した。誰もいない川で裸足で歩いたり息子  
 の嬉しそうな姿が印象的だった。私も現実を  
 忘れ、ゆったりとした時間を過ごせた。そし  
 て我が子の純粋な心に触れ、改めて自然や周  
 囲への感謝の気持ちが生まれた。私にとって、  
 心が満たされた、とても良き一日となった。